



49. 使徒聖ヤコブ (H84.0)



50. 聖母子像 (H82.0)



51. 修道士像 (H35.0)



52. 聖パウロ (H67.0)



53. 無原罪の聖母 (H63.5)



54. 聖女エレナ (H70.0)



55. 兵士の頭部 (H20.0)



56. 聖ヨハネ (H50.0)



57. 司教 (H70.0)



58. 聖母子像 (H65.0)



59. 幼児キリスト (H69.0)



60. 聖セバスティアン(H88.0)



61. 聖母子像 (H71.0)



62. 聖母子像 (H85.0)



65. 父なる神 (H67.0)



63. ピエタ (H26.0)



64. 標刑 (H40.0)



66. 司教 (H60.0)



15. 須磨弥吉郎氏の肖像 (150.0×120.0)

須磨弥吉郎氏とそのコレクション

故須磨弥吉郎氏は、美術愛好家、また美術品収集家として知られた人である。須磨氏は1940年代の世界的混乱の中で、スペイン内乱によって、とりわけこの昏迷に沈

んでゆく西欧世界への、ひとりの招き役を演じたスペインにあって、1940年から46年の5ヵ年にわたり、特命全權公使として活躍された。

須磨氏の美術に対する愛好及びその収集は、スペイン赴任前の中国での美術品収集から引き続いてきたものであり、中国で集められた書画、彫刻、陶器の美術の各分野においてみられるように、美術品に対する一方に片寄らない趣味は、スペイン美術の収集にあたって、同じように、作品についての須磨氏の捉われのない目の輝きとなってあらわれている。それは、収集が、ある1人の画家あるいは画派というのではなく、また、ある特定の時代に限定されていないというところに顕われている。たとえば、このコレクションは、12、3世紀から17、8世紀までの聖像彫刻の作例をはじめ、15世紀から17世紀頃と思われる祭壇板絵、及び19世紀ないし20世紀のキャンバス画といった具合に、様々な時代、各種の分野におよんでいるのである。

スペイン美術の流れを見渡そうとするとき、他からの影響に次々と従っていった、その変転極まりない歴史を強調することはできる。だが思考の常として、ここに一貫して流れるものを見ようとすることもできよう。そしてスペイン人の美術史家の多くが後者であるように、須磨氏もやはり、ここに列する人であった。梅花草堂主人と号した須磨氏が、スペイン絵画について語るとき、そこに氏自身が感じたものは、何ものにも染まない個性によって一貫した一幕のドラマであった。

作者紹介

エウヘニオ・ルーカス

(Lucas y Padilla, Eugenio, 1824~1870)

マドリード郊外アルカラーに生れ、マドリードの王立サン・フェルナンド美術学校に学んだ。1859年頃モロッコに移住。マネ (Edouard Manet 1832~83) とは友人であった。ペラスケス、ゴヤの模倣者ということで、あまりにも悪評が高いが、生き生きとした劇的構成、表現力、初期の眩いほどの色彩から、後の落ち着いた上品な賦彩が、彼の絵の特徴とされる。偉大な先達者の模倣者ということを強調することよりも、むしろ闘牛、革命、宗教裁判等の描写において、ゴヤからもっとも多く靈感を得た、と言うべき画家である。マドリードで没す。

マリアーノ・フォルトウニー

(Fortuny y Carbo, Mariano José Maria Bernardo 1838~1874)

スペイン東海岸レウスに生れる。早く孤児となり、バルセロナの美術学校、またクラウディオ・ロレンサーレの工房で画家の修業を積んだ。1855年から56年にかけてすでに絵画展へ作品を出品し、挿絵のためのリトグラフを制作した。1858年バルセロナ市庁給費生としてローマへ行き、名作の模写に励んだ。1859年、スペイン・モロッコ戦争が勃発するや、従軍画家として加わり、戦闘をまのあたりに見るのだった。その後、「テトウアンの戦い」の制作の依頼を受け、この後、たびたびモロッコを訪れることになる。1865~66年にかけて、多くの水彩画、エッチングも描くが、東洋趣味を加えたその作品は、当時、第一級の色彩画家にふさわしい稀に見る巧みさをもって描かれたものであった。1874年病の寝起き2人の子供たちを描いて時を忘れた彼も、同年ローマの地に36の齢を閉じた。

アンヘル・リスカーノ

(Lizcano y Esteban, Angel 1846~1878)

アルカサル・デ・サン・ファンに生れた彼は、1871年マドリードで国の展覧会において処女作を公にする。歴史画家であり、風俗画家、挿絵画家でもあった。挿絵としては、1879~83年のB. Berez Galdos の「Episodios Nacionales」の初版のためのものがある。トレロ (Torero) に死す。

リカルド・バローハ

(Baroja Nessi, Ricardo 1871~1953)

スペイン南部ミナス・デ・リオティントに生れたが、永く北方のサン・セバスチャン近郊に住んだ。小説家ビオ・バローハの兄であった彼は、文筆にもすぐれていた。1928年国立グラフィック美術学校の教師になるが、1931

年自動車事故にあい片目を失った。しかし、その後も創作活動を続け、画家、版画家として98年代の注目すべき存在となった。とくにバスク地方をはじめ、スペイン各地を描いた風景画は情趣豊かに作家の詩情を語っている。ペーラ・デ・ビダソアで没す。

マヌエル・ベネディット

(Benedito Vives, Manuel 1875~)

バレンシアに生れ、マドリードに住んだ。1904年、パリに住み、そこでマネと印象派の人々から強烈な感動を受けた。1897年と1900年のマドリードの展覧会、1905年のミュンヘンでの国際展覧会において賞を受けた。肖像画・風景・海景画・動物・静物画と初めは熱烈な写実主義者であったが、あとは、肖像画家として型にはまり、平凡に墮ちていった。

バスケス・ディアズ

(Vázquez Díaz, Daniel 1882~)

ナルバに生れる。セビーリャで商業科教員課程を終えると1904年から14年まで、約10年間パリに生活する。この間自己の絵画を形成してゆく。1914年30歳前にパリのサロンに作品「ロス・イドロス」(闘牛師達)を出品し、その後、イタリアへ行く。マドリード、パリ、ニューヨーク、シカゴ、ボストン、ロンドン、ヴェネチア、ローマをはじめ無数の個展、共同展を開催した。またラビダのサンタ・マリア修道院にはスペイン政府の依頼による有名なフレスコ画「発見の詩」がある。

ホセ・グティエルレス・ソラーナ

(Solana, José Gutiérrez 1886~1945)

マドリードに生れ、14歳の時王立サン・フェルナンド美術学校に入学。ゴヤの継承者として、身近なものに対する執拗な観察が、マドリードの貧しい人々を描くことに向けられた。乞食、酔っ払い、下女などが彼の暗く陰うつな絵のモチーフであり、色彩はわぼこく、重く流れてゆく。彼の人物を配したその構成は、しばしばひとつの中心に集まる。1917年国内美術展で「肩衣の行列」が二等賞を受け、1922年と1929年には「激の唄」と「コーラス・ガール」で一等賞を獲得した。1945年マドリードで没するまで、一度パリに出たきりで生涯マドリードを制作の場とした。彼はスペイン的な伝統に深く根ざした画家であるとともに短篇文学も出す文筆家でもあった。

前頁参考資料 須磨弥吉郎「西班牙絵画の今昔」

(「みづゑ」第515号、昭和23年10月、美術出版社)

スペイン美術史略年表

ローマ支配時代 (B. C. 218)		ローマ風の建物が建てられ、建物の装飾画が描かれる。とくにそのモザイクの使用とともに、モザイクの聖画が描かれる。
西ゴート王国時代 (414)	661年	聖ホアン・デ・バニョス教会(バレンシア)建立される。古典古代文化との断絶。
イスラム支配 (713)	785年 899年	コルドバのモスク(回教寺院)第一期工事着工。 スペインの守護聖人聖ヤコブの遺骸が発見され、中世三巡礼地の一つ、サンティアゴ・デ・コンポステラ市が建設される。
アラゴン王家 (1000)	975年- 1072年頃	リエバナ修道院のベアトの手になる黙示録注釈の写本がつくられる。その他数種のモサラベ、ロマネスク写本がこの時期から13世紀にかけて制作され、初期ロマネスク美術が展開する。
カスティリヤ王家の時代 (1035)	11世紀末 12世紀半 13世紀 1345年	ロマネスク様式の教会が建てられる。 カタルニヤ地方にロマネスク絵画の一派が栄える。 ロマネスク・ゴシック様式の板絵が描かれる。 フェレール・パッサ、バルセロナの教会に、ジョットー風やシエナ派風の壁画を描く。
国家統一時代 (1479)	1427年 1541年 1575年	ヤン・ファン・アイク、ブルゴーニュ公の使節と共にイベリア半島を旅行する。 ルネサンス様式 エル・グレコ、クレタ島に生まれる(～1614) この頃エル・グレコ、スペインに現われる。
	1588年 1599年 1614年 1629年 1692年	ホセ・デ・リベラ生まれる(～1656) ディエゴ・ベラスケス生まれる(～1660) エル・グレコ「ラオコオン」を描く。 ルーベンス、マドリッドに滞在し、ベラスケスと親交をもつ。 ルカ・ジョルダノ、イタリアのパロッキョ装飾画を伝える。
ブルボン家 (1700)	1746年 18世紀前半 ～後半 1761年 1799年 1800年 1819年	フランシスコ・ホセ・ゴヤ・イ・ルシエンテス生まれる。(～1828) フランス、イタリアの画家が宮廷に迎えられる。 ドイツの画家メンクス、新古典主義を伝える。 ゴヤ、銅版画集「ロス・カプリチオス」を出版する。 この頃、ゴヤ、「裸体のマハ」「着衣のマハ」を描く。 マドリッドのプラド美術館開設される。
サヴォイア家 (1871)	1874年	マリアーノ・フォルトゥーニ(1838～)ローマで没す。
第一共和制 (1873)	1879年	アルタミラ洞窟内の壁画が発見される。
ブルボン家 (1874)	1881年 1893年 1904年 1907年	バプロ・ピカソ、南スペインの港町マラガに生まれる。 ホアン・ミロ、スペインのモントロアに生まれる。 サルバドール・ダリ、スペインのフィゲラスに生まれる。 ピカソ、「アヴィニヨンの娘たち」を発表する。
第二共和制 (1931)	1937年	バリの万国博覧会において、ピカソ、スペイン館に「ゲルニカ」を発表する。

スペイン美術関係展覧会歴

- 昭和45年(1970)「スペイン美術巨匠展」-グレコ、ゴヤからピカソまで-
 昭和45年(1970)「スペイン美術展」-ゴヤ、グレコ、ベラスケスを中心とする-
 昭和49年(1974)「スペイン美術展」-長崎県立美術館博物館所蔵須磨コレクション-
 昭和51～52年(1976～77)「スペイン名画展」-16世紀から現代まで-

作品目録

順	作者名	作品名	制作年	形状	寸法	備考
1	エウゲニオ・ルカス	闘牛士		板	32.0×16.5	
2	〃	聖体拝領		キャンバス	54.0×68.0	
3,4	マリアーノ・フォルトウニー	テトゥアンの戦い		〃	76.0×140.0	2枚1組
5	〃	馬小屋		〃	38.0×42.0	
6	〃	田舎女とろば		〃	31.0×19.5	
7	〃	自画像		コンテ	47.5×41.5	
8	アンヘル・リスカーノ	アンヘル・ソスカノの家族		キャンバス	35.0×44.0	
9	リカルド・パローハ	霧	1943	板	57.5×85.0	
10	〃	レコレトス街		キャンバス	83.0×93.0	
11	〃	シウダ・レアルの街	1928	厚紙	82.5×74.5	
12	マヌエル・ベネディクト	裸婦		キャンバス	198.0×109.0	
13	バスケス・ディアズ	アイドルたち		〃	237.0×247.0	
14	〃	勇敢な人ホルヘ	1930	〃	108.0×108.0	
15	〃	須磨弥吉郎氏の肖像		〃	150.0×120.0	
16	ホセ・グティエルレス・ソラナ	田舎の謝肉祭		〃	79.0×65.0	
17	ホセ・グティエルレス・ソラナ	田舎の謝肉祭		〃	71.4×51.0	
18	〃	不詳		〃	211.0×98.0	
19	〃	十二使徒		〃	22.0×34.0	
20	〃	ドン・ジェイゴペラール		〃	196.5×106.0	
21	〃	バルコニーの महिला		〃	41.0×31.0	
22	〃	レツス		〃	26.0×18.0	
23	〃	フェルナンド7世の肖像	1828	〃	252.0×173.0	
24	〃	聖セグンド景	1706	〃	198.0×131.0	
25	〃	ミサの情景		〃	109.0×88.0	
26	〃	聖母子		〃	120.0×99.0	
27	〃	鞭打たれるキリスト		板	77.0×100.0	
28	〃	洗着聖ヨハネ		〃	122.0×61.5	
29	〃	聖母の戴冠		〃	138.0×107.0	
30	〃	ピエ		〃	53.5×44.5	
31	〃	洗着聖ヨハネ		〃	158.0×101.0	
32	〃	磔刑		〃	80.0×55.0	
33	〃	聖ヨゼフと幼児イエズス		〃	34.5×26.0	
34	〃	聖サンテイヤゴ		〃	164.0×78.0	
35	〃	聖ルタエ		〃	106.0×72.0	
36	〃	聖バルトロメオ		〃	106.0×72.0	
37	〃	聖セバスティアヌス		〃	101.0×55.0	
38	〃	かみらん山の祈り		〃	92.0×58.0	
39	〃	聖母子		〃	85.0×67.0	
40	〃	キリストの受難		〃	75.0×98.0	
41	〃	グッセマニの祈り		〃	37.5×34.0	
42	〃	磔刑		〃	115.0×80.0	
43	〃	飾り屏風		板彫刻	147.0×56.0	
44	〃	牧者礼拝		〃	90.0×67.5	
45	〃	モンセラットの修道院	16世紀	〃	111.0×82.0	
46	〃	柱につながれたキリスト		木彫	H97.0	
47	〃	聖母子像	13世紀頃	〃	H60.0	
48	〃	慈悲の聖母	15世紀	〃	H20.0	
49	〃	使徒聖ヤコ	14世紀	〃	H84.0	
50	〃	聖母子像		〃	H82.0	
51	〃	修道士像	16世紀	〃	H35.0	
52	〃	聖ハツ		〃	H67.0	
53	〃	無原罪の聖母		〃	H63.5	
54	〃	聖女エレナ	16世紀	〃	H70.0	
55	〃	兵士の頭部	17世紀	〃	H20.0	
56	〃	聖ヨハネ	13世紀	木彫	H50.0	
57	〃	司教		〃	H70.0	
58	〃	聖母子像	13世紀	〃	H65.0	
59	〃	幼児キリスト	16世紀	〃	H69.0	
60	〃	聖セバスティアン	15世紀	〃	H88.0	
61	〃	聖母子像		〃	H71.0	
62	〃	聖母子像		〃	H85.0	
63	〃	ピエ		石彫	H26.0	
64	〃	磔刑	13世紀頃	〃	H40.0	
65	〃	父なる神	14世紀頃	〃	H67.0	
66	〃	司教	16世紀	〃	H60.0	

行事のお知らせ

昭和54年度

常 設 展	(月曜・祝日の翌日休館)		
佐賀県の歴史と文化展	4月1日～4月22日 5月27日～7月1日 8月5日～9月30日 12月11日～3月31日	大人50(30) 大・高生30(20) 中・小生20(10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展覧する。

団体は20名以上、()内は団体料金

企 画 展			(月曜休館、月曜祝日の場合は火曜休館)		
展覧会名	会 期	観 覧 料 ()内は 団体料金	展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は 団体料金
スペイン美術展 -須磨 コレクション-	4月28日～5月20日	大人200(100) 大・高生150(70) 中・小生100(50)	古代の遺宝展 -鏡と剣と玉-	10月6日～11月4日	大人300(200) 大・高生200(100) 中・小生100(50)
佐賀美術協会展	6月14日～6月24日	無 料	佐賀県美術展	11月17日～11月25日	大人200(150) 大・高生100(70) 中・小生50(30)
岡田三郎助展	7月7日～7月29日	大人500(400) 大・高生300(200) 中・小生200(100)	佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道部門展	11月28日～12月4日	無 料
			佐賀県学童美術展	12月8日～12月12日	無 料
七夕展	8月4日～8月8日	無 料	九州 グラフィック・デザイン展	55年 1月10日～1月16日	無 料
佐賀県書作家協会展	8月10日～8月14日	無 料	書 初 展	1月19日～1月23日	無 料
			佐賀県勤労者美術展	1月27日～2月1日	無 料
文化庁 移動美術展	8月21日～9月9日	大人200(150) 大・高生100(70) 中・小生50(30)	佐賀大学卒業制作展	2月21日～2月24日	無 料
理科作品展	市・9月14日～9月18日 県・9月20日～9月26日	無 料	肥 前 の 捕鯨民俗資料展	3月1日～3月23日	大人200(150) 大・高生100(50) 中・小生50(30)

会期は都合により変更されることがあります。 修学旅行等の計画に博物館の見学を折り込んで下さい。

● 人事異動

昭和54年3月31日付

● 退職

館長 松崎利彦

昭和54年4月1日付

● 転入

館長 大塚正道(総務学事課長より)

総務課庶務係主事 江副幸子(佐城教育事務所庶務係主事より)

総務課庶務係技術員 戸川内匠(保健予防課成人病係

技術員より)

● 転出

総務課庶務係主事 小林静枝(佐城教育事務所庶務係主事へ)

総務課庶務係技術員 竹下仁三(佐賀土木事務所へ)

博物館報	第44号
発行年月日	昭和54年4月15日
編集	大塚正道
発行	佐賀市内1丁目15-23 佐賀県立博物館
印刷	佐賀印刷社